

市長から 市民のみなさんへ



山陽小野田市長 白井博文

10 「まちづくり市民会議『ごみ処理対策』部会の 公募」と「路線バスのアンケート」について

まちづくり市民会議「ごみ処理対策」部会 の募集について

朝夕めっきり涼しくなり、秋の深まりを感じさせるこのごろですが、みなさん、いかがお過ごしでしょうか。体調を崩しやすい時期でもありますので、どうかお体をご自愛ください。

さて、今回の広報では、まちづくり市民会議の「ごみ処理対策」部会の募集についてお知らせしています。関連して「ごみ」についての、さまざまなご意見も掲載していますが、日常生活に密着したごみの問題について、市民のみなさんの関心の高さがうかがえる内容です。

ごみの減量化、分別の徹底をめざし、新市の誕生にあわせて、市ではごみ指定袋の導入を決めました。旧小野田市においては、いままで指定袋でのごみ出しは行われておらず、また周知期間が短かったため、導入当初はみなさんにご迷惑をおかけしたことと思います。改めておわび申し上げます。また、指定袋だけでなく、合併時に分別・収集方法などについても新市としての方針を決め、市民のみなさんにご協力をお願いしたわけですが、今回の特集をご覧になってもおわかりのとおり、もっと市民の声を反映させ、改善する余地がまだまだあるようです。

そこで、現状の問題点をふまえ、市民のみなさんの「ごみ」についてのご意見、アイデアを持ち寄ってもらい、話し合う場を作ろうと考え、まちづくり市民会議「ごみ処理対策」部会を設置することにしました。

繰り返しになりますが、日常生活に密着したごみ問題については、多様な考えがあることと思います。それらをまちづくり市民会議「ごみ処理対策」部会で集約していただき、その提言をもとに、市としては、ごみ問題に精いっぱい取り組んでいく決意です。市民と行政とのより良い関係は、ごみ問題の解決なしには進まないと思っております。「ごみ袋はこうした方が使いやすいのでは」など、ユニークなアイデアをお持ちの方、ぜひともご応募いただいて、ごみ問題について、話し合いをしてみませんか。今回の募集から、作文の提出は行わないことにしています。お気軽にご応募いただければと思います。

路線バスのアンケートにご協力をお願いします

今回はもう一つ、前ページの路線バスのアンケートについてお話しします。

市内には民間会社が運行するバスが、幹線道路を中心に走っていますが、実は、市から今年度そのバス運行に対し、1億円を超える助成が行われるということをご存知でしょうか。乗客が少ないバスを見かけることは多々ありましたが、私も市長になって、初めてこのことを知り、驚きを隠せませんでした。

多額の助成を行っているにもかかわらず、利用する人が少ない路線バスの現状を考えたとき、「交通弱者」といわれる高齢者の要望に配慮して、もっときめ細かい公共の乗り物を走らせる手法があるのではないかと思ったのが、今回、アンケートを実施しようと思ったきっかけです。

アンケートは65歳以上の高齢者がいらっしゃる、すべてのご家庭にお送りすることにしました。実際に現在、路線バスをどのように利用されているのかについて調べるとともに、高齢者の方々がどのような公共交通機関を望んでおられるのかを知りたいと思ったからです。

例えば、「山あいに住んでいますが、限られた少ない本数のバスを利用し、週に2回、市民病院に通っています。可能なら、週に1回くらいは街に出て買い物もしてみたいです」という回答など、そのすべてについて徹底的に分析し、どの経路にどれほどの需要があるのかを調べてみたいと考えています。

都市部以外の地域の方々の「生活の足」を確保し、提供するのには行政の大切な役目だと思います。ましてや、65歳以上の人口が4分の1をこえようとしている山陽小野田市においては、公共交通機関に移動手段を頼らざるを得ない人が、きっと多くいらっしゃるはずです。対策は急を要するのです。

助成金の削減を含め、よりよい公共交通システムを作りあげていく上での重要な資料として大いに活用させていただきますので、できるだけ多くの方にアンケートにご回答いただき、実情を知らせていただくことを希望します。お忙しい中、申し訳ありませんが、ご協力をよろしく願います。

最後になりましたが、先日の市議会議員選挙で当選された議員のみなさん、おめでとうございます。難問山積、特に財政問題に関しては、非常に厳しいところに追い込まれている山陽小野田市ですが「車の両輪」ともいえる議会とよりよい協力関係を保ち、なんとかこの難局に立ち向かっていきたいと思っております。議員のみなさんにも各方面でご協力をお願いすることになるかとは思いますが、よろしく願います。

**10月の
対話の日**

- とき: 10月20日(木) 19時から
(1時間半程度の予定)
- ところ: 有帆福祉会館(新有帆町)